

今週（3月18日から3月22日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の日銀当座預金残高は週初377兆円半ばから始まり、20日の国債大量償還・利払いを経て大幅に増加したことで、週末の22日には388兆円台まで増加した。無担保コールO/N物は、積み期序盤であることや、国債の大量償還・利払いを受けて資金余剰となっていることに加えて、GCLポレートが▲0.10%以下に低下したため、先週のテイクン地合いから一変し、早々にギブンされる地合いとなった。調達サイドは地銀・証券業態が中心で都銀業態の調達ニーズは限定的だった。そのため、週を通して加重平均レートは▲0.06～▲0.05%程度と低水準で推移した。ターム物は期内物のショートタームで▲0.03～▲0.02%程度の出合いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは22日に2W物・15,000億円がオファーされ、5,131億円（期落ち額4,781億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、レートが低下基調となった。新しい積み期間に入ったことに加え、20日の国債の大量償還による資金余剰もあり、先週まで高止まりしていたGCレートは▲0.15～▲0.10%程度まで出合いのレンジが低下した。GCターム物は、足元レートの状況を反映し、徐々に低下していった。週初は1M物で▲0.12%近辺、3月末を越える2W物でも▲0.14%近辺の気配であったものの、週の半ば以降は年度未越えのプレミアムが意識されるようになり、1M物で▲13%近辺、2W物では▲0.17%近辺の気配となった。

SC個別銘柄では、10年337、340、342、5年131、134、136などにビッドが目立った。20年債の新発167回は19日にリオープン発行となったが、入札前後でも大きな動きが見られなかった。

●短国市場

今週の短国市場は、ファンディングレートが低下するなど需給の改善が見られ、月末要因もあってか残存1～3ヶ月の銘柄が▲0.180%近辺で出合う場面も見られるなど、週を通して全般的に強含みのマーケットとなった。

18日に実施された短国買入オペは、2,500億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.002%、按分落札利回較差±0.000%と、応札額も8,728億円にとどまるなど、需給の改善が見られる落ち着いた結果となった。

19日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.168%から▲0.185%まで買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.1787%、按分落札利回▲0.1747%とWI取引を反映してしっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.185～▲0.180%出合いと堅調に推移した。

22日に実施された3M物の入札は、WI取引において玉確保の動きから▲0.205%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1958%、按分落札利回▲0.1824%と前回債からレートが低下する順調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.195%から出合い、最終的には▲0.180%での出合いが見られた。1Y物が堅調に推移した反面、入札水準が強かった3M物は▲0.180%が出合うなど、若干軟調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、石油・石炭、ノンバンク、電気機器等の複数業態で大型発行が散見されたものの、週間発行総額は1兆円程度と、償還額1兆700億円程度を若干下回り、償還超のマーケットとなった。期末の残高調整の影響で、直近20日の市場発行残高は19兆6,667億円と2月末から1兆円程減少しているものの、前年同時期と比較すると、2兆4,000億円程高い水準にある。特に一般事業法人の発行残高は1兆5,000億円程度（+23.6%）と大きく増加しており、全体の伸びを牽引している。

発行レートは、先週に引き続き低い水準で推移している。特に期越物で、発行頻度の低い物、発行残高の少ない物はマイナスを深掘りする動きが見られた。また、期内物に関しても、上昇圧力は生じておらず、一部ではマイナス圏でレートを切り下げる銘柄も見られた。直近のCP等買入オペでポジションを落としたと見られるディーラーが買いを強めている影響と考えられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/18 (月)	21,584.50	△ 0.040	111.55	△ 0.051	△ 0.102	3,775,700
3/19 (火)	21,566.85	△ 0.050	111.28	△ 0.053	△ 0.112	3,786,900
3/20 (水)	21,608.92	△ 0.040	111.60	△ 0.059	△ 0.143	3,880,300
3/21 (木)						
3/22 (金)	21,627.34	△ 0.075	110.71	△ 0.061	△ 0.140	3,884,000

## 来週（3月25日から3月29日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/25 (月)					
3/26 (火)	決定会合における主な意見(3月14・15日分 8:50) 2月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 4,000億円 3/27発行			1月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 2月の米耐久財新規受注 3月の米CB消費者信頼感指数
3/27 (水)					1月の米貿易収支
3/28 (木)		2Y 20,000億円 4/1発行			10-12月期の米GDP確報値
3/29 (金)	2月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 3月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 2月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 2月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 2月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 2月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)				2月の米個人所得・消費支出 2月の米新築一戸建て販売件数 3月のシカゴPM景況感指数 10-12月期の英GDP確報値

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/25 (月)	▲ 400	22,700	22,300	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 4,800 ▲ 800 900	5,100 800 400	1,600	23,900	年度末融資 TB3M発行▲43200償還42200 流動性供給▲4000
3/26 (火)	0	6,000	6,000				0	6,000	
3/27 (水)	0	▲ 5,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	財政融資資金の回収 40Y発行▲4000
3/28 (木)	0	20,000	20,000				0	20,000	年度末諸払い
3/29 (金)	▲ 1,300	11,100	9,800	CP買入		3,500	3,500	13,300	年度末諸払い
週間合計	▲ 1,700	54,800	53,100	—	▲ 4,700	9,800	5,100	58,200	

3/25は日銀予想、3/26以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き資金調達ニーズが弱く、レートは低水準の推移が予想される。特に年度末を越える取引となる29日は、調達サイドが大きく減少することが予想される。資金需給は25日に財政融資資金の貸付、27日に財政融資資金の回収、28・29日に年度末諸払い等が予定されている。レポ市場は、GC取引が3月末に係るため、GCレートの低下基調がどこまで続くか、注目される。短国市場は、入札の実施予定がなく、需給環境などマーケット動向が注目される。CP市場は、期末週となるため、発行を見送る先が多く、通常の月末に比べて静かなマーケットとなることが予想される。26日には今年度最後のCP等買入オペが3,500億円で実施予定となっている。玉不足やオペ見合いから直近の発行レートは低下しており、対象銘柄次第では前回からさらに低下する展開も考えられる。

主要なイベントとしては、国内では29日に3月の全国CPI、海外では28日に10-12月期の米国GDP確報値、29日に10-12月期の英GDP確報値等の発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようお願い申し上げます。

◆金融商品の取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品の取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入